

12・23 福島・南相馬市立総合病院、

根本先生を囲む会

地域医療懇談会講演会一區 医療制度研究会後援

午後2時：春日部市民文化会館 練習室(1)

3・11以後、8か月。被災地のことを忘れかけていませんか？少しずつでも復興に向けて進んでいて、あとは時間が解決するだろう、そんな状況だと思っていないませんか？

しかし、被災地の現状は、危機的です。6月から9月、国の調査によると、38人が、災害関連の自殺を遂げています。実に3日に一人が自殺していることとなります。この38人の裏には、多くの追い詰められた人がいるはずです。

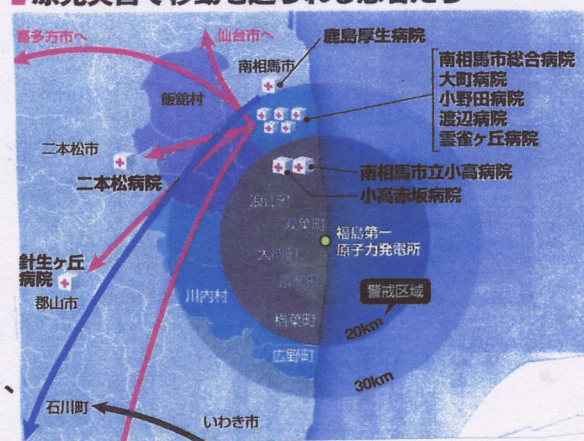
こうした人々は、家族を亡くした人、津波にあったなどの壮絶な経験をした人に多いというわけではありません。その92%の人が、失業・リストラ・住宅再建などの経済的問題を抱えているといいます。

他方、住民の健康を守るための、医療はどうなっているのでしょうか。福島、相双地区では、避難した住民は、緊急時避難区域が解除されたのちも、帰ってきていません。除染が進んでいないからです。働く場が、失われたままだからです。医療機関から、スタッフの退職も止まりません。

そんな中でも、地域の医療を守るために、現地で必死に働く多くの医療者たちがいます。南相馬市立病院も、その医療機関の一つです。そこで外科医として働く、根本先生をお招きして、お話を伺うことになりました。震災・津波・原発事故のなかで、現地の医療者たちは何を考えどう行動したか、また、今現地の医療がどんな状況なのか、先生のお話を伺い、我々に何が出来るか考えましょう。

—あらかじめの申し込みは不要です、当日受付してください—

■ 原発災害で移動を迫られる患者たち



本田宏

本田宏、医療制度研究会「講演を通じて、被災地の医療現場を学び、医師不足の埼玉の医療、全国の医療をどう守り、どのように医療機関を利用すべきか、考えましょう。」

の